# 令和６年度　自己評価・学校関係者評価 報告書

| 学校番号 | 29 | 学校名 | 不破高等学校 |
|---|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 学校教育目標<br>（教育方針） | 歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。 | |
| ３つの方針<br>(ｽｸｰﾙ･ﾎﾟﾘｼｰ) | どんな生徒を育てたいか<br>【ＧＰ】 | ・ 基礎的･基本的な学力を身に付け、主体的に課題解決に取り組む生徒<br>・ 基本的生活習慣を身に付け、自分と多様な人々の生命の安全と互いの人権を尊重し、規律を守る生徒<br>・ 自分に適した進路目標を見つけ、進路実現のための学力とコミュニケーション能力を身に付けた生徒 |
| | 生徒をどう育てるか<br>【ＣＰ】 | ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図るための「学び直し」を実践するとともに、具体的な到達目標の設定と指導内容の重点化を推進<br>・ 保護者との連携を図りながら共感的な生徒理解に努め、ユニバーサルデザイン（不破高スタイル）を基礎とした段階的な支援（New不破高スタイル）を実践<br>・ 単位制のメリットを活用した５つの類型による教育課程を編成し、進路希望に即した科目選択を充実させ、自己適性の的確な理解に基づく進路目標を実現 |
| | どんな生徒を待っているか<br>【ＡＰ】 | ・ 学習活動にコツコツ取り組む生徒<br>・ 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒<br>・ 学校生活に真摯に取り組み、進路実現を目指そうとする生徒 |
| 学校の抱える課題 | ・生徒が主体的に活動できる授業展開を研究する必要がある<br>・遅刻、欠席等を減らすための継続的な取組をする必要がある<br>・ＦＳＴ（総合的な探究の時間）の内容を精査し、改善し続けていく必要がある | |
| 教育指導の重点 | 領域・分野 | 今年度の具体的な重点目標 |
| | 学校経営 | 生徒の実態や時代の変化に即した、活力ある学校経営の推進 |
| | 学習指導 | 基礎・基本の定着と、ＩＣＴを活用した学習活動による主体的な学習態度の育成 |
| | 進路指導 | 地域と連携したキャリア教育や探究活動を通し、将来の自己実現の在り方を考えようとする態度の育成 |
| | 生徒指導 | 基本的生活習慣を確立し、生命の安全と互いの人権を尊重する規律ある学校づくりの推進 |

| 年　度　目　標 | | | | | 年　度　末　評　価（自　己　評　価） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 領域<br>分野 | ３つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な<br>具体的取組・方策 | 県教育振興基本計画での位置付け | | 達成度の判断・判断基準<br>あるいは評価指標 | 取組状況・実践内容<br>評価項目の達成状況等 | 評価<br>A.B.C.D | 成果と課題 | 総合<br>評価<br>A.B.C.D |
| 学校経営 | 学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する。 | 20 | 施策Ⅳ-20 | 年3回の学校運営協議会における意見、評価等 | 授業や学校行事の公開、部活動の発表等を通じて、本校の様子を公開し、ご意見をいただいた。<br>探究活動や生徒会活動等を通して、垂井町や地元企業等と積極的に連携することができた。<br>活動を通して、主体的に取組むことや挑戦すること等の大切さについて学ばせることができた。（生徒アンケート結果より）<br>全職員による通級による指導「自立活動」の内容をふまえ、学習支援や生徒支援のための校内研修を実施した。 | B | ○地元のこども園・小・中学校との積極的な交流を行い、意見を取り入れながら、活性化に繋げることができた。<br>○計画・立案の段階から生徒が積極的に活動に取組み、試行錯誤しながら主体的な学びをすることができた。<br>○年３回の活動を通して、自己表現力等の人間関係形成能力の育成を図ることができた。<br>▲本校における特別支援教育を実施するために、今後も継続した職員の校内研修が必要である。 | B |
| | コミュニティスクールとして、地域との積極的な連携交流を図り、本校の特色を活かした「ふるさと教育」を推進する。 | 4 | 施策Ⅰ-4 | 各種連携交流事業の取り組みに対する自己評価等 | | | | |
| | 「演劇ワークショップ」等の活動を通して、コミュニケーション能力や自己肯定感・自己有用感を育成する取組を推進する。 | 1 | 施策Ⅰ-1 | 実施後アンケート結果、生徒向け外部評価等 | | | | |
| | 自校型の通級による指導等の充実を図り、高校における特別支援教育を推進する。 | 21 | 施策Ⅳ-21 | 「自立活動」及び「自己探求（学校設定教科）」の自己評価等 | | | | |
| 学習指導 | 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、義務教育段階までの「学び直し」を行うとともに、具体的な到達目標を定め、指導内容の重点化を進める。 | 8 | 施策Ⅱ-8 | 生徒一人一人のつまずきの把握と考査結果の分析 | 国語・数学・英語においては、学習実態を把握し、「学び直し」を実践することができた。<br>ＩＣＴを活用した授業を積極的に取り入れ、授業力の向上に努めた。公開授業週間中は、授業見学に取組みやすい体制を整えた。<br>生徒の学びを多面的な指標で評価し、授業へ取組む意欲の喚起に努めた。 | B | ○国語・数学・英語においては、授業の様子や定期考査の結果から生徒の学力推移を把握することができた。<br>○定期考査の問題について、「知識・技能」を問う問題に偏ることなく、「思考力・判断力・表現力」を問う問題について各教科で検討した。<br>▲生徒が主体的に活動できる授業展開の研究を進めたい。 | |
| | 少人数授業の利点を活かしながら、ＩＣＴを活用した学習活動を積極的に取り入れ、生徒が成就感・達成感を得られるような魅力ある授業づくりに努める。 | 9 | 施策Ⅱ-9 | 生徒からの授業アンケート結果の分析 | | | | |
| | 生徒の資質・能力を観点別に評価し、評価の方法についてさらなる改善を図る。 | 8 | 施策Ⅱ-8 | 各教科による学期ごとの評価と成績の変化についての分析 | | | | |
| 進路指導 | 探究活動を通して自ら学ぼうとする姿勢や他者と協働しようとする態度を育成する。 | 1 | 施策Ⅰ-1 | 探究活動の取り組みに対する自己評価等 | 学年の垣根を越え協働する環境を提供し、探究活動を通して主体的な学びを促進した。<br>地元企業や地域の人々と生徒が直接関わることができる新たな企画を充実させた。<br>基礎学力の定着を目指し、各種教材を活用した取組みを実践した。<br>キャリアプランナーや外部講師による講座を開催し、適性や進路を考える機会を提供した。 | B | ▲与えられたテーマへの関心が薄く、主体的な学びが発揮されないこともあった。<br>○直接的な関わりにより、生徒に地域貢献の重要性をより感じさせることができた。<br>○自己の目標に従い、自主的に課題に取組む姿を見ることができた。<br>○自己の適性や可能性を理解し、進路選択に対する意識を向上させることができた。 | |
| | 地域の文化や人々との関わりを大切にし、その一員として地域に貢献する心を培う。 | 4 | 施策Ⅰ-4 | 企業との連携、高大連携による進路行事の充実 | | | | |
| | 基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己実現に向けた態度を育成する。 | 8 | 施策Ⅱ-8 | 各種教材等の有効的な利活用 | | | | |
| | 自己の適性や可能性を理解し、キャリアプランナーや外部機関と連携したキャリア教育を推進する。 | 13 | 施策Ⅱ-13 | 総合的な探究の時間の充実 | | | | |
| 生徒指導 | 保護者との連携を密にして、全職員の共通理解のもと、身だしなみ・遅刻・授業規律等の学校生活における規範を遵守する態度を養う。 | 7 | 施策Ⅰ-7 | 身だしなみ指導や授業実態の報告内容 | 身だしなみ指導の際の保護者への連絡等、個々の状況に合わせた支援を行うことができた。<br>いじめや不登校へ対応する手段として、家庭訪問の機会を増やした。本人、保護者、学校の三位一体構造による支援に重点を置いた。<br>ＭＳリーダーズ活動に重点を置き、警察署との連携を密にし、挨拶活動、清掃、地域行事への参画を果たした。<br>個別の支援を必要とする生徒が増加している中、個々の対応をより綿密に行った。 | B | ○保護者と連携した生徒支援を行い、ＴＰＯに応じた服装や身だしなみが意識できるようになってきた。<br>▲いじめについては継続した組織対応、不登校については別室対応をはじめとする生徒支援を継続的に行いたい。<br>○特殊詐欺防止について、警察署との連携を図り、地域へ還元する機会を作るなど、地域連携を深めることができた。<br>○個別の支援計画に基づいた指導を行うことで、保護者との連携の中で、個々の支援を実施することができた。 | |
| | 信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解に努め、予防的・共感的教育相談を推進し、いじめや不登校への迅速な対応に努める。 | 3 | 施策Ⅰ-3 | いじめや不登校に対する対応と報告内容 | | | | |
| | 学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む体制づくりを整備し、社会参加活動を援助する。 | 19 | 施策Ⅲ-19 | ＭＳリーダーズ活動の報告内容 | | | | |
| | 必要に応じて、個別の教育支援計画を作成し、より細かな支援を実施する。 | 21 | 施策Ⅳ-21 | 個別支援の実施報告内容 | | | | |

**来年度に向けての改善方策等**　　実施日：令和７年１月２２日

・生徒の多様なニーズに応える教育を展開し、生徒の主体性を更に育むことを目指して、来年度より毎月１回特別時間割の週を設けた「不破ウィーク」を導入する。
・観点別学習状況評価を行う上での学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行う。
・生徒が主体的に授業に参加することができる授業方法の研究や授業実践に取組む。
・垂井町との継続的な連携を模索し、生徒の主体的な学びに位置付けて、課題解決型学習を推進する。
・持続可能な「総合的な探究の時間」の在り方を検討するとともに、生徒一人ひとりが自らテーマ設定に取組み、学びの主体性を高められるよう、年間を通じた計画を策定する。

**学校関係者評価**　　実施日：令和７年２月４日

・生徒の主体性を引き出す指導について、教職員が共通理解して取組んでおり、地域貢献の意欲を持った明るい挨拶のできる生徒が育つなど、地域に親しまれる学校になっている。
・生徒のニーズに応じた柔軟な対応やカリキュラム作りを行うとともに、少人数の強みを生かした生徒の実態に応じた指導が適切に行われており、生徒自身もその成果を自覚できている。
・進路実現に向けたきめ細かな情報提供を行うとともに、地域の講師や企業の講師を招いたり、自己の適性を理解する機会を複数回設けるなどの適切な指導がされている。
・学校経営方針や重点に基づいて行っている取組の成果が、生徒の姿や言動に育ちとして表れている。